

## 東日本大震災から2年、復興への取り組み

平成23年3月11日に発生した東日本大震災発生から2年。NHKは被災地をとりまく状況について、さまざまな角度からの番組で東日本大震災を検証し、イベントなどを通して、復興を支援してきました。NHKの取り組みと視聴者のみなさまから寄せられた声をご紹介します。

## さまざまな角度からの検証番組

NHKスペシャルでは、毎月1回の「シリーズ東日本大震災」や震災2年のタイミングでの5日間連続編成など、年間90本あまりのうち30本以上を震災・原発関連特集として放送しました。

地震の最新科学を追った「メガクエイク」や原発の事故原因に迫る「メルトダウン」などの大型番組、被災地に寄り添った「イナサがまた吹く日」や納棺師を通して遺族の悲しみを描いた「最期の笑顔」などの密着ドキュメンタリー。除染、がれき処理、復興予算、住民の帰還、初期被ばくといった復興の課題……。さまざまな角度から東日本大震災を伝え、多くの反響をいただきました。NHKスペシャルをはじめ数多くの番組が、これからも被災地の復



「シリーズ東日本大震災 がれき "2000万トン"の衝撃」



「3.11 あの日から2年 メルトダウン 原子炉 "冷却"の死角」

興と災害への備えを重点的テーマとして捉え、鋭意取材中です。

## 被災地に赴く 公開復興サポート 明日へ

震災から2年を迎えるにあたり、これまで各地で実施してきた復興への道のりを考えるイベントやワークショップを集中的に展開する「公開復興サポ



東北大学ではさまざまなイベントや番組が実施されました。

ト明日へ」を、25年1月に福島市で、2月に仙台市・東北大学で開催しました。特に2月の東北大学では39の番組・イベントを実施し、およそ5,400人が来場しました。

また、収録した番組は2月から3月にかけて放送し、全国のみなさまにもあらためて復興について考えていただく機会を提供しました。

## 復興支援ソング「花は咲く」

震災から1年の時に、被災地の復興を応援するテーマソング「花は咲く」を制作し放送を開始しました。作詞（岩井俊二さん）、作曲（菅野よう子さん）、そして歌唱をいずれも被災県出身あるいはゆかりの方にお願しました。

その後、ピアニストの辻井伸行さんやウィーン少年合唱団にも参加してもらい、荒川静香さんと仙台の子どもたちとのリンク上でのコラボ、アニメの制作、視聴者のみなさまから投稿をいた

く「百万人の花は咲く」など、1年の間にさまざまな展開をしています。

なお、この楽曲の著作権料、および売り上げの一部は、NHK厚生文化事業団を通じて、義援金として被災地に送られています。



西田敏行さんをはじめ、多くの方が歌いました。

## NHK ではこの他にも被災地支援の様々な取り組みを行っています。

「きらり東北の秋」 「ひらり東北の春」	四季を通じた東北の魅力を伝えるキャンペーンです。
「ただいま東北」	大河ドラマ「八重の桜」の綾瀬はるかさんが東北の人たちと触れ合います。
「証言プロジェクト」	震災当時の体験を語っていただき、番組とWEBで紹介します。
「カレンの復興カレンダー」	被災地の皆さんに今の日常をブログに書いてもらい紹介します。
「スマイルキャラバン」	番組の人気講師が仮設住宅などに伺いイベントや講演を行います。
「こころフォト」	震災で亡くなった方の写真と家族のメッセージを募集し紹介します。



## このような意見をいただきました

東日本大震災「故郷を取り戻すために ～3年目への課題～」(3月11日放送)

- 待ちに待った特集だった。今、復興はどうなっているのか、進捗状況と今解決しなければならない課題を具体的に報道してもらえると本当によく理解できる。批判ばかりの報道ではなく、事実と課題が確認できるとなんだか希望が湧いてくる、そんな特集だった。(60代 女性)

「メルトダウン 原子炉“冷却”の死角」(3月10日放送)

- よく取材して放送してくれた。福島原発事故についての検証が終わっていないのではないかと、何かうやむやにされている、と感じていた。うやむやにされているものが何なのか、この番組を通して具体的にはっきり目に見える形で示された。(60代 女性)

花は咲くスペシャル ～復興を願う心のうた～(3月14日放送)

- 震災後しばらくして、父の故郷の秋田県に車で向かう際、ラジオから流れてきたのが「花は咲く」だった。その時は「本当に花なんて咲くのだろうか?」と、絶望とも虚脱感ともつかない気持ちだったが、少したった被災地の映像には、ちゃんと「花が咲いている」のが、映し出されていた。本当に花は咲くのだ。もっと多くの花がきっと咲くのを信じている。そのために、私もできることをしていきたいと思う。(40代 男性)
- とても素晴らしい内容で、涙を流しながら見た。番組スタッフ、そして花は咲くプロジェクトに参加した著名人の方々に大きな拍手を送りたい。(20代 男性)

## ● 担当者から ●

「『花は咲く』で被災地のことを思い出していただきたい」

この歌は聴いてもらうことはもちろん、皆さんに歌ってほしい歌でもあります。震災から時間がたつと「忘れない」という言葉がとても重要になります。

特に被災地から離れたところに住む人たちに、折にふれ震災のこ

とを思い出してもらう、そのために歌は効果的だと思います。歌うたびに被災地に思いをはせていただければと願っています。



東日本大震災プロジェクト  
長野 真一 専任部長

# 東日本大震災から2年、復興への取り組み

## ～命を守るために～ 津波警報の伝え方を改めました

東日本大震災の際に、NHKは大津波警報や津波警報などの情報を繰り返し伝え、避難の呼びかけを続けました。しかし、多くの方が犠牲になったことを教訓に、一人でも多くの命を救うため、大津波警報や津波警報が出た際は、切迫感をもって避難を促すように、呼びかけのコメントを改善しました。

大津波警報や津波警報が出た際は、「大津波がきます」あるいは「津波がきます」など、断定的な口調で伝えるとともに、「東日本大震災を思い出して

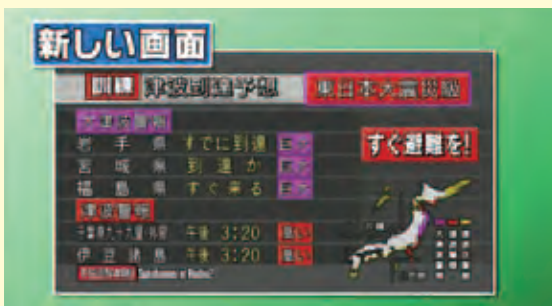
ください。命を守るため今すぐ逃げてください」などと訴え、直ちに避難するように促す呼びかけを行うことにしました。特に、大津波警報の場合は、「逃げる」ことなど、命令調に近い口調で避難を促しています。また、テレビの画面表示についても、さまざまな改善を行っています。



### このような意見をいただきました

12月7日(金)、宮城県沿岸に津波警報が出され、NHKは改善したコメントや画面表示で初めて放送しました。

- 地震の放送を見ている。津波警報の対応が素晴らしい。ずっと避難を促している。余計なことは言わず、危険を告知する、こういった放送が人命を救助することにつながると思う。さすがNHKだ。(60代 男性)
- 東日本大震災を経験しているため、(自分の)足が震え混乱する中で聞いたアナウンサーの確かな声と指示に落ち着きを取り戻せた。「東日本大震災を思い出してください」は効いた。とても冷静になれた。(40代 女性)
- 「東日本大震災を思い出してください」と何度も繰り返していたが、仙台で被災した友人が「思い出してしまい傷ついた」と言っていた。人命第一で避難を呼びかけるために言っていたということは十分理解しているが。(40代 女性)



気象庁の「津波警報改善(3月)」に伴って改められた画面表示の一例(津波到達予想)

### ●担当者から●

#### 「一人でも多くの命を津波から守りたい」

私たちアナウンサーはそれまで、警報を伝える訓練を行い、しっかりと準備をしていたつもりでした。ところが、地震による死者と行方不明者が合わせて2万人近いという事実、途方もない無力感に襲われました。

どうすれば放送で多くの命を救える

のか。震災の数か月後には検討会がスタート。専門家に意見を聞いたり、避難呼びかけの声のトーンを検討したりするなど、効果的な伝え方も徐々にわかってきました。迫ってくる津波から確実に避難してもらうための放送に取り組んでいきます。



アナウンサー室  
武田 真一 チーフ・アナウンサー



## 被災地域にある3つの放送局の復興への取り組み

### 仙台局 災害時も想定したラジオ番組公開生放送

東日本大震災でも大きな役割を果たしたラジオにより親しんでいただくため、仙台局では2月に、宮城県内3か所で「災害時も想定した公開生放送」を行いました。

番組内でのレポートには衛星携帯電話を用いたほか、みなさまからのメールも、ホームページの投稿フォームから転送されたものを現場で受けて紹介しました。また、会場では、NHKの災害報道への取組

みをパネルで展示しました。



### 福島局 被災者の声にお応えして「新日本紀行」上映会

津波と原発事故により避難生活をしている浪江町の方から、「かつての浪江町を撮影した新日本紀行の上映会を開いてほしい」との手紙が寄せられました。この声にお応えして、4月に二本松市で番組上映会を開催し、昭和48年と昭和56年に放送した番組を上映しました。およそ100人が参加した会場では、大型スクリーンの映像に、「人々の元気な姿や街並みを見ることができて、とてもうれしかった」との声が聞

かれました。

また7月には南相馬市で、福島を代表する伝統の祭り「相馬野馬追」の貴重な映像をご覧いただく上映会も開催し、野馬追にかける地域の思いが一体となって会場は感動に包まれました。



### 盛岡局 新人職員がボランティア研修

盛岡局では、被災地の現状を新人に肌で感じてもらうため、今後、被災地の岩手県で働く意味を考えてもらうため、大槌町でボランティア研修を行いました。

当日は、被災したホテルの泥出しや皿などの洗浄を行いました。研修に参加した新人は、被災地のみなさんの苦労を肌で感じて、被災地や今後の仕事について考えるきっかけになり、非常に有意義な研修となりました。



ボランティア活動終了後、大槌町役場旧庁舎で献花、合掌



狭い穴に潜り込んで、津波により堆積した泥(ヘドロ)をかき出す